

# 町内で生産された牛乳を飲みたい ～ミルクプラントを活用した取組～



なかとんべつちょう  
中頓別町

北海道の北部、北緯45度に位置し、宗谷(そうや)管内では唯一海に面していない中頓別町。自然豊かな緑と水に恵まれた町の中央部に秀峰・ピンネシリ岳を有した、酪農と林業が盛んな町です。その中頓別町で生産される良質な生乳を原料に、町直営による「小規模・多機能型ミルクプラント」を活用して希少性の高さにこだわった牛乳を製造する取組についてお話を伺いました。

(取材者 加藤、榎本、橋場)

## なかとん牛乳の誕生

中頓別町の基幹産業は酪農業ですが、以前は町内に生乳加工を行う施設がなく、町内の酪農家が生産する生乳は全て町外の乳業メーカーの工場へ運ばれ、町民が町で生産された牛乳を飲むことはできませんでした。このため、町民からは「町内で生産された牛乳が飲みたい」、「牛乳を使った特産品を開発してほしい」といった声が多くありました。

そこで、町では平成12年度に整備した農業交流体験施設「食彩工房もうもう」の中に、地方創生加速化交付金を活用し、平成28年9月に町営のミルクプラントを整備しました。こうして、町内で生産される生乳を原料に、道内でも数少ない自治体直営によるミルクプラントを使った「なかとん牛乳」の製造が始まりました。

▲食彩工房もうもう



▲プラント内の殺菌機と充填機



## 牛乳本来の味にこだわりました

「なかとん牛乳」の特徴は、主に三つあります。一つ目は、殺菌方法です。一般的に市販されている牛乳は超高温(120～130度)で瞬間的(1～3秒)に殺菌する方法が多く用いられますが、加温温度が高くなると消費期限が長くなる代わりにたんぱく質が熱変し、ビタミン類が壊されることにより風味が変化します。一方、「なかとん牛乳」は63～65度の低温で約30分殺菌するため、消費期限が5日程度と一般的な牛乳より短くなりますが、風味が損なわれず生乳本来の味に近いものになります。

二つ目は、処理方法です。市販の牛乳は、超高温殺菌による焦げ付きを防ぐなどの目的から、乳脂肪中の脂肪球を均質化するホモジナイズ処理を行うところ、「なかとん牛乳」はこの処理を行わないため、脂肪分がクリーム状に浮き上がることがありますが、濃厚な牛乳の証です。

三つ目は、酪農家ごとの味の変化です。1年ごとに、町内で特に乳質の良い酪農家を3戸程度選定し、1戸ずつリレー方式で集乳しています。数箇月ごとに集乳



▲できた牛乳は当日の午後には店頭にも並び



▲2人体制で製造している

先が替わるため、酪農家ごとの味の違いを感じる事ができます。  
製造は、現在火曜日と金曜日の週2回、1回あたりの生乳処理量は平均40kgの小ロットによる生産で、200mlを約70本、900mlを約25本製造しており、消費期限が短いことから道の駅やピンネシリ温泉、一部小売店など基本的に町内6か所のみで販売しています。

関係機関との連携

「なかとん牛乳」の特徴でもある、質の高い生乳を安定的に生産するために、町内酪農家の更なる意識向上と乳質改善の取組により地域全体での高品質な生乳生産を目指し、宗合農業改良普及センターから指導や助言をもらうことで、酪農経営に対する関係者の意識も徐々に高まりを見せています。

また、牛乳を使用した特産品開発の要望に応えるため、町では、乳製品開発の基礎知識や開発・製造手法等について、道立総合研究機構食品加工研究センターのアドバイザーによる技術指導を受けることにより、「なかとん牛乳」と同様、牛乳本来の味や風味を楽しめる「なかとんアイス」と「なかとんソフトクリーム」の開発につながることができました。



▲「なかとんアイス」と「なかとんソフトクリーム」

地域への波及効果

「なかとん牛乳」は、町内小売店での販売に限らず、町内の小中学校の給食や認定こども園への提供のほか、町内イベントでのPRも行っています。イベントでは、牛乳を使用したパンやチーズを使ったピザなども販売しています。

町民の方々からは、「一般的に売られている牛乳よりも飲みやすい」「町内の温泉や道の駅に『なかとん牛乳』が並ぶようになって嬉しい」といった声が数多く寄せられるようになりました。

また、良質な牛乳を出荷している酪農家からは、「原料を供給する酪農家として選ばれることは宮農の励みになる」との声も聞かれます。

こうした中、平成30年11月には、農林水産省が選定する、地域活性化や所得向上に取り組み北海道独自の特徴ある優れた取組として、第5回北海道地区「ディスプレイ」農山漁村（むら）の宝」に選ばれたこともあり、「なかとん牛乳」が町民に定着してきているのを感じます。

今後の取組

道内では数少ない、自治体直営のミルクプラントによる乳製品の製造という特徴をいかし、地域内の消費を向上させながら「なかとん牛乳」や「なかとんアイス」などの乳製品が町を代表する特産品として認めていただくため、より多くの酪農家から質の高い生乳を集められるよ

う、町内に33戸ある全ての酪農家の乳質向上を目指しています。また、「なかとん牛乳」の販路拡大に向けては、先日、札幌市内（どさんこプラザ札幌店、きたキッチンオーロラタウン店）で試験販売を実施したところ、大変好評を得たこともあり、今後は町外でのPR活動についても積極的に行っていきます。

さらに、町内外の生産者や他の自治体からはミルクプラントを使った牛乳や乳製品の加工を委託したいとの要望も一定程度あるので、ミルクプラントの稼働率向上に向けた取組も考えています。

今後も、乳製品の製造・開発を進め、雇用創出や酪農家の後継者・新規就農者の確保につなげていくとともに、「なかとん牛乳」をはじめ、ミルクプラントを活用した製品づくりの取組にはまだまだ可能性が残されていますので、引き続き地元の方々に愛される製品づくりを目指して積極的に取り組んでいきたいです。



▶ 取組について語る  
中頓別町産業課 参事 多田 優彦氏

本記事の取組は、中頓別町産業課で担当しております。



てしおちょう  
天塩町

わっかおいし

## 天塩町と稚内市を結ぶライドシェア ～町民による相乗り交通の取組～

### 相乗りで地域の課題に挑む

北海道北西部の天塩町は、国内4番目の長さ誇る長流河川で北海道遺産にも選定されている天塩川の河口に位置する町で、粒が大きく、濃厚な味のヤマトシジミの産地として知られる漁業と酪農業が盛んな町です。その天塩町で、全国の過疎地域に先駆けて、地域住民の生活圏における移動手段を確保するための「ICT（情報通信技術）を活用したライドシェア（相乗り）」の取組についてお話を伺いました。（取材者 榎本、加藤、橋場）

天塩町の多くの住民にとって、町から北に70km離れた稚内市は、日々の生活に必要な総合病院や比較的大規模の大きい商業施設、税務署やハローワーク等の官公庁もあることから、町民の生活圏の一部になっています。

しかし、昭和62年の国鉄羽幌（はほろ）線（幌延（ほろのべ）～留萌（るもい）間）の廃線により、天塩町から稚内市までを公共交通機関により移動すると、バスとJRの乗り継ぎで片道約3時間を要することから、日帰りの場合には、稚内市での滞在時間が1時間未満に制約されてしまいます。一方、自家用車で移動する場合には、片道約1時間で移動できるため、住民の多くは自家用車を移動手段にしています。こうした中、町では、平成29年2月に住民の「車と日常生活の密接度合い」を把握するため、アンケート調査を実施したところ、町民の98%が「車が使えなくなったら困る」と回答するとともに、今後の運転可能人口を把握するため、将来の「運転人口指数」を推計したところ、平成27年の指数を100とした場合、その30年後には、運転可能人口が半数以下になる調査結果が明らかになりました。

このため、町では、将来的に見込まれる「単独での自家用車の運転によらない住民の移動手段の確保」という課題を解決し、30年先を見据えた取組として、国や公共交通機関への要請を行うといった従来の方法ではなく、新たに具体的な対策を講じることにしました。

着目したのは、日常的に市町間を車で往復する町民が多いことと、その車両に空席があること。そこで、ICTの活用により車の空席を未利用資産として「見える化」を図るために、町は、平成29年1月に国内最大級の相乗りマッチングサイト運営している、株式会社Rotteco（ロットコ）と提携し、ライドシェア（相乗り）の取組をスタートさせました。

会員数：約4万4千人  
相乗りマッチング数：3千件/年



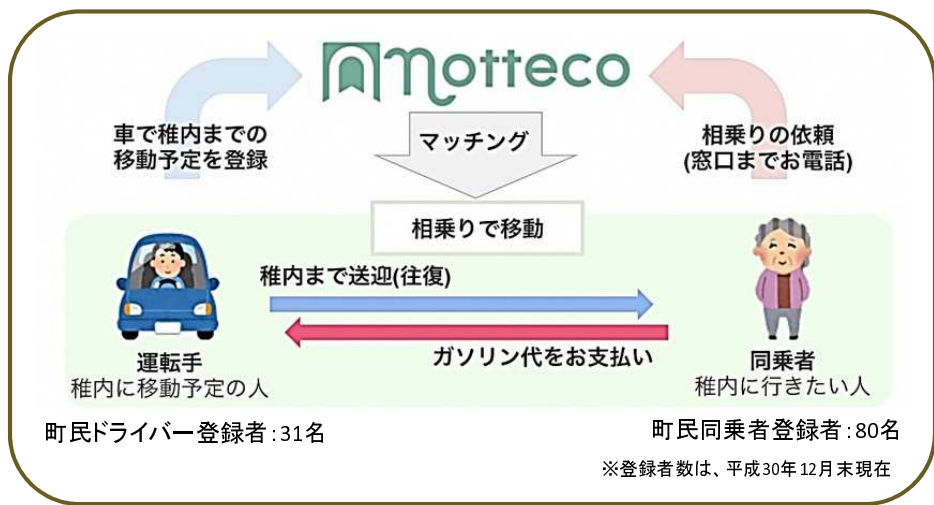
中長距離ライドシェアによる課題解決

ライドシェアの仕組み

ライドシェアは、一般的にタクシーのように乗りたい人が乗りたい時に車を呼ぶ短距離移動中心の「オンデマンド配車型」とヒッチハイクのように中長距離移動中心で移動に要した実費を割り勘する「コストシェア型」に分けられますが、天塩町におけるライドシェアは後者です。町民の生活圏となる天塩〜稚内間に限って実施することで、町内のタクシー事業者にとって民業圧迫とならないよう配慮しています。

天塩町のライドシェアの仕組みは、町から自家用車で稚内市に移動する予定のあるドライバーが、(株)Mottecoが提供する専用サイト上に移動予定を登録し、同乗を希望する方が専用サイトにアクセスもしくは役場へ電話をして自身の希望と合う予定がないかを確認します。そして、ドライバーと同乗者の予定が一致した場合にマッチング成立となり、その後移動日までにドライバーと同乗者が乗り合わせ場所などの詳細を打ち合わせを行い、当日に相乗りで移動します。

料金については、あくまでも移動に要したガソリン代の実費をドライバーに支払うため、使用している車の燃費を勘案した上で予め算出します。バスとJRを利用すると片道1800円以上かかりますが、ライドシェアの場合、片道300円〜900円で移動することができます。ガソリン代(実費)のみの料金設定により、道路運送法第2条第3項の旅客自動



車運送事業に該当せず、道路運送法上の許可や登録を要さないため、いわゆる「白タク行為」には当たりません。このサービスを利用するためには、ドライバーと同乗者は事前に登録が必要となります。ドライバーの登録条件は、年齢が70歳未満、自動車任意保険加入、スマートフォン・インターネット利用者で、同乗者の利用条件は、年齢が18歳以上の町民となっています。

利用しやすいように

町では、ライドシェアの取組を平成29年3月から開始し、半年間の実証実験を経て同年10月に本格的に導入しました。高齢者でも利用しやすいように、インターネットに加えて電話による対応や、分かりやすいチラシの作成、高齢者住宅への訪問などを行った結果、平成30年12月末時点での利用者数は延べ283人となり、うち高齢者の利用割合は8割で、主な利用目的は通院が最も多くなっています。

かんたん・快適・安心・便利

天塩〜稚内間  
相乗り交通

初めての方

実施中

同乗したい

まず 役場 2-1001  
にお電話ください

※平日のみ8:30〜17:30

ドライバー募集中!  
詳しくはコチラ→



天塩〜稚内 相乗り交通ホームページ/ride.motteco.jp

▲分かりやすいチラシ



▲ 老人クラブでの説明

今後の展開

利尻 利尻島への日帰り相乗りツアーも実施

天塩〜稚内 相乗り交通・認知拡大、普及促進プロジェクト



実証実験から約1年が経過し、ライドシェアの取組は町民の方々に徐々に浸透してきており、「この仕組みがなくなったら町に住み続けることができない」、「非常に助かっているので今後も続けてほしい」という声も多く聞かれます。

利用者が増えるのは喜ばしいことですが、ドライバー登録者数は多いものの、実際には数人のドライバーに過度に依存している状況にあることから、参加ドライバーを増やすことが求められています。また、万が一事故が発生した場合、ドライバー個人の責任となることから、心理的な負担を軽減するためのインセンティブの導入などの検討課題も残されています。

今後の過疎化や高齢化の進行なども見据え、限られた有形・無形の資産の活用度を高めるためにも、相互扶助の精神を大事にしながらいライドシェアを継続的に続けられるよう取り組んでいきたいです。

# 先の道は、ISHIKARI — 元定着に向けた取組について



▲若者からの公募による北海道150年記念・イシカリ150ブックカバープロジェクト最優秀賞のデザイン

石狩地域は、多くの大学や企業が集中し、道内他地域から15歳〜29歳の若者の転入が多い傾向にあります。一方で道外への転出も依然として増加しています。

石狩振興局では、地域創生を進めるため新規学卒者の地元就業・定着に向けた取組などにより、札幌圏が持つ道内人口のダム機能を強化するとともに、充実した交通網などを有する石狩地域の優位性をいかし、首都圏からの人材還流の促進に向けた取組を行っているため、その内容を紹介します。

ラッピングした寄附型自動販売機  
(ヤンマーアグリジャパン(株)  
北海道カンパニーほか 江別市)



中学生の地元就職促進事業  
まとめ学習(江別市)

大学生の地元ものづくり企業の見学  
(ステンレス加工場 石狩市)



大学生と若手社員との交流会  
(千歳市)

大学生と若手社員との交流会  
(東京都千代田区)



## 「さっぽろ圏」若者定着促進 広域連携事業

地方創生関係交付金を活用し、平成28年度から、管内の市町村や民間団体と連携のもと、地域一丸となって若者の地元定着の促進や、首都圏からの人材還流に向け、学生や企業への直接的な働きかけだけでなく、保護者を対象とした取組を実施するなど、様々なアプローチにより、事業を展開しています。

### ◇ 大学生と若手社員との交流会・ 合同企業研究会 ◇

道内外に勤務経験のある管内企業の若手社員と交流することで、地元で働く魅力を理解するため「大学生と若手社員との交流会」を札幌市内や千歳市内で平成28〜30年度までに7回開催し、これまでに100名を超える学生が参加しました。

大学生に地元で働くイメージをより具体的に持つため、平成28年度には「大学生・若手社員と石狩振興局長との意見交換会」も併せて行い、振興局が主体となって地元で働くきっかけづくりに取り組んできました。

また、平成29年度以降は、対象者を首都圏にも広げ、平成29年度は埼玉県の獨協大学で、平成30年度には東京都内でも交流会を行い、30名を超える学生が様々な業界で活躍する若手社員から実体験を踏まえたアドバイスを受けています。

さらに、首都圏大学生を対象としたUIJターン促進に向けた取組として、平成30年度は、神奈川県専修大学におい

て、石狩振興局として初めて「管内企業による合同企業研究会」を開催し、北海道での就職に興味のある34名の学生に14企業の人事担当者らが自社の魅力をPRしました。

### ◇ 就業力育成セミナー・保護者セミナー ◇

地元で就職した若者の早期離職を防止するため、平成30年度から新たに「就業力育成セミナー」を開催し、キャリアコンサルタントによる講演やグループワークを行うことで、学生の就職に対する心構えなどについて学べる機会を創出しています。

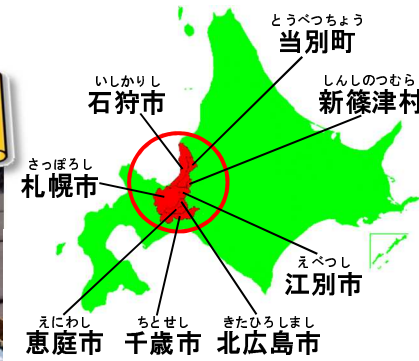
また、「保護者」にも地元就職への関心を高めてもらうため、新たに、最新の就職活動事情をテーマとした保護者向けのセミナーも開催しています。

### ◇ 大学とものづくり企業との交流・連携 ◇

将来の企業選択の機会提供や就業後のミスマッチを防止するとともに地元企業の認知度向上を図るため、北海道科学大学と石狩市内のものづくり企業の交流を行う「石狩管内地元大学生による進出企業等マッチング事業」を平成28年度から実施しています。単なる企業見学だけではなく、学生が作成した企業PRレポートのホームページでの発信や、大学教員と企業担当者との交流会などを通じて、普段接する機会がなかった大学と地元企業との間に交流が生まれ、平成30年度には北海道科学大学と石狩商工会議所間で連携協定が結ばれました。



「150ブッカパー」の展開によるランチョンマット(当別町道の駅ほか)



「イシカリ150絵本」の読み聞かせ(札幌市)



「雪に恋! しんしのつ」で子どもと雪だるま作り(新篠津村)



選挙啓発高校生出前講座における模擬投票(北広島市)



1日防災学校での防災食作り(恵庭市)

◆ 中学生による地元企業探検

より早い段階から若者に地元の企業や仕事への興味を持ってもらうため、平成27年度から江別市や恵庭市の中学1年生を対象に「石狩管内地元就職促進事業」を実施しています。企業見学のほか、見学で感じたことなどを班ごとにまとめ、最後には見学先企業を招いて発表会を行います。地元企業からは中学生の素直な意見や感想が聞けると、大変好評です。

カムバック&ウェルカム・イシカリ事業

地域政策推進事業として、平成29年度から石狩管内の大学生が市町村や地域おこし協力隊員などと連携し、若者が石狩地域に対する愛着を醸成する事業を実施しています。

◆ 新篠津村のPR

平成29年度は北海道情報大学の学生が、新篠津村の地域おこし協力隊と連携し、3種類の観光PR動画を作成しました。村内の道の駅や各種イベントで放映されるなど、村のPRに活用されています。

平成30年度は、札幌国際大学の学生10名が、新篠津村の新たな冬のイベント「雪に恋! しんしのつ」を企画し、広報から当日の運営までを行いました。わかさぎ釣りで賑わう道の駅で、餅つきや雪だるまづくりを行い、200人を超える来場者がイベントを楽しみました。

◆ 管内農業・農村のPR

北海道と包括連携協定を結んでいるポッカサッポロ北海道(株)と北海学園大学の協力のもと、地域農業・農村のPRと担い手支援を目的とした寄附型自動販売機の設置を、平成29年度から進めています。大学生と石狩振興局の若手職員が作成したデザイン「コンセプト」をもとに「北のまんが大賞」を受賞した漫画家がイラスト化し、自動販売機にラッピングを施すことで、市町村ごとの特色を表現しました。大学生の地域への愛着を醸成させるとともに、自動販売機の売上げの一部は、石狩管内指導農業士・農業士会に寄附され、農業の担い手支援への活用が図られています。

「未来ステージ」- その先の道は、ISHIKARI-

石狩振興局では、北海道200年に向けて、大学生だけではなく、未来を担う子どもたちを対象に、市町村や関係団体、石狩教育局等と連携しながら、地元への愛着を醸成させるための体験型事業なども行っています。

石狩地域が若者たちにとって、輝く未来のステージとなるよう、今後も地域創生に向けた様々な取組を着実に進めていきます。